

I. 「見る」から「視る」へ 作品を「視る」ということ

作品との出会い

「鑑賞が始まる瞬間、それが、本来の、幼稚で、原始的で野蛮な「目」=「見ること」の、墮落なんだよ」と言っている。「鑑賞とは、墮落である」。「見ること」に内在している、本来の、幼稚で、野蛮で原始的な「野性」を取り戻したい。

「キュレーターの極上芸術案内」(新見隆著 武蔵野美術大学出版局)より

作品に出会う。その時に何を感じるか。何を想うか。ある時は、言葉にならない衝動。全身の毛穴が引き締まる感覚。何ともしがたい気持ち。時には作品に触発されて絵を描きたいという気持ちになる。これはもちろん個人差のあることで、作品と出会った時の本当の感じ方は、人それぞれが自分自身に問うほかない。美術史の中での作品の位置づけや作家の人生、あるいは技術や素材の知識などを得ることは、作品と出会った後、もっと知りたいと感じた人がそれぞれ自分で行くことだ。まずは作品と出会う。そして作品を見る。その時に一番大切なことは、丁寧にみることだ。視覚は形の向こうを見ることはできない。しかし形の向こう側を想像することはできる。それは能動的な行為とも言えるかもしれない。触った時の質感も想像することができる。ただ眺めてみるだけではなく、積極的にみることを意識する。それは「見る」から「視る」になることであり、自分から作品に能動的にかかわることと言える。じっと見ていると、どんな気持ちになってくるか。心の変化を感じることに結び付く。自らが見ようとして視ること。そうした「視る」ということを改めて考えていきたい。

作品との距離を変えてみる

最初に作品との距離について考えたい。作品を見る時、なるべく作品に近い最前列が得をすと思っている人はいないだろうか。首を動かさなくても、視界の中にちょうど作品が収まるベスト・スポットがある。視界にすっぽりと作品が入る距離。それは平面作品なら、おおよそ縦横どちらか長い方と同距離離れたところがそうだ。そこからさらに離れれば、作品の印象、気配、構図をより感じやすくなる。例えばキャンパスの中にイメージを凝縮させた心象風景を描く高山辰雄や、画面の外側にまで空間を感じさせる福田平八郎の作品は、作品から離れて見るとその違いを感じることができる。そして近づけば、ディテール、マチュエール、テクスチャーを見ることができる。

混んでいる展覧会で運よくお目当ての作品の最前列まで来られたとしても、そこで満足してはいけない。そこからさらに焦点距離が50cmの双眼鏡を用いると、筆跡や筆圧、混色の具合、絵の具の粒子などを見ることができる。作品を描く作家の距離だ。具体的に作品から“離れる”と“近づく”を繰り返す。チャールズ&レイ・イームズの映像作品「パワーズ・オブ・テン」(1968)の視点のごとく、同じモノでも距離が変わればまったく異なるモノを見ることになる。視界が変わることさまざまな見え方になることをより具体的に顕在化させたワークショップが、「三種の神器でめぐるギャラリーツアー」であった。

作品を見る方法を変えてみる

続いて作品を見る方法について考えよう。作品の見方には人の数だけ方法があると言ってもいい。作者の意図や歴史的社会的背景を知りたい人、技法や素材を知りたい人。解説タイプの鑑賞ツアーを望む人もいれば、自由に見たい、一人でじっくり作品を味わいたい人もいるだろう。モノの見方は人それぞれだ。その中で独自の視点を持ち、自分なりの見方ができると、見るのが楽しくなる。

同じ作品で、見る方法を変えてみるのもいい。「自分なりの」見方以外の方法で見るのである。作品のみをじっくり見る。その後、タイトルや作家などを見てから改めて作品を見る。誰かと一緒に見ることを想う(例えば子供7〜8人と一緒に見るとしたら、どんな話題で盛り上がるか)。作品と同じ表情やポーズを試してみる(「土曜アトリエ」の「カオカミュージアム」でこれを行っているが、その時は細部までこだわるのが重要だ)。作品の前で佇んで見る。素材に注目。技法に注目。色彩に注目。作品との距離を変える。斜めから見る。しゃがんで見る。さまざまな方法を試せば試すほど、いろいろな顔が見えてくる。描かれたモノと目を合わせてみたり、好きな色をテーマカラーに展示室を巡ったり、光、四季、動物、食べ物などをテーマに見るきっかけ作りをしても良いだろう。きっかけは無数にある。

同じ作品を見ても、独りで見る時と、誰かと一緒に見る時の楽しさは異なる。独りで見る時は、じっくり作品と向き合う時間が持てる。それは自己の内部と静かな対話をする時間でもある。誰かと一緒に見る場合には、互いの感想を話しながら見ることができる。同じ作品でも違った感想が聞けるのは、感じ方の違い、解釈の違い、人としての違いも感じる事ができ、興味深い。もちろんその際の相手を選ぶことは大切である。そして大勢と一緒に見る時には、より一層、一つの作品でもいろいろな感じ方があることを再認識できる。

季節によって、日によって、時間によって、日々変化する自身の感覚によって、あるいは体調や精神状態によって、同じ作品でも異なる印象になる場合は少なくない。悲しい時、楽しい時、憤りを感じている時に作品を見ると、同じ絵でも感じ方はまったく異なるはずだ。人は日々感じ方や気持ちが変わる。毎日新しく生まれ変わる。だから昨日見た作品でも、今日見るとまた違った感じ方をする。それなのに、一度見てしまったからもう美術館に行かなくても構わない、と思っている人はいないだろうか?それは作品を見たのではなく、在ることを確認したに過ぎない、とは言いきらぬだろうか。

「見る」が「視る」に変わる時

このように見る方法はいくらかあることに気づき、その方法を自身で見つけると、見る行為が進化し、作品の受け止め方は深化する。さらに作品を見る幅が広がるだけでなく、日常への視線も拡大する。世界が広がる。丁寧にみるという自らの意志、つまり能動的な視線が加わった時、それは「見る」が「視る」に変わる時である。視るという快楽。作品の前に思わず佇む。やがてその視線は世界とつながったような一体感を感じるかも知れない。それが「視る」こと、つまり「身体で視る」ことなのだ。

開幕展に伴い、県内小学生6万人招待事業「ファーストミュージアム」で子供たちの案内をお願いしたガイドスタッフの人達は、2か月半の間ほぼ毎日、作品群に囲まれて過ごした。始まった当初は、「何を話せばいいの」「解説なんかできない」「難しい」「わからない」といった声がたくさん聞かれた。しかし時間を重ね、作品をひたすら見る時間、作品に接する時間が多くなるにつれ、自身が視ることそのものを楽しむようになった。子供たちの方ではもと、目の前に在る作品を、目の前に在るモノとして楽しんでいる。そうした姿に触れ合う時間を重ねるうちに、いつしかみんな見る行為自体が楽しくなったのである。知識に頼らず子供たちを連れて館内を歩き回る。勉強熱心なガイドスタッフの中には、作家のことや同時代の美術史の流れなどを自ら勉強し、子供たちとの会話の中でその内容を話すかどうか、その場で判断して決める人たちもいる。こうした様子を見てみると、まさに「見る」が進化し、深化し、「視る」に変わったといえるのではないかと感じた。

ここで巻頭の「鑑賞とは、墮落である」という新見館長の言葉をもう一度、思い出したい。あなたは作品を見て、これは何ですか?とすぐ人に聞くのではないだろうか。題名が気になって仕方なくはないだろうか。私には美術はわからない、と思っていないだろうか。しかしこの「わかる」とは一体どういうことか?それは自分の眼で視ることにほかならない。そのためには、とにかく丁寧に視る。あるいは作品と触れ合う時間を多く持つ。すると感じ方は日々変わる。こうしているいろいろなコトを感じることも、まさに「美術している」ことである。

「美術館はきっかけであって、終点では決してない。出発点。その人がどう楽しめて、どう変わるか。美術館において最もクリエイティブなのは観客です」(新見隆)

やはり視ること、感じることは楽しい。

(榎本寿紀)

遊び場としての 美術館

美術館へ遊びに行く

「来ればわかる」＝「来ないとわからない」美術館

「来ればわかる」。大分県の道路沿いには、こんな看板がある。とても気になる言葉だ。美術館と美術作品、そしてワークショップのことを端的に表している言葉のような気がする。来ないと、見ないと、体験しないと、美術作品は実物に触れないとわからないことだらけだ。この時の「わからない」は感じることを指すのは言うまでもない。「来ればわかる」。ゆくゆくはワークショップのタイトルにしようかと本気で考えたりもする。しかし、行かないとよさがわからない美術館。では、まだ一度も美術館を訪れていない人たちにどうやって来てもらうか。そのための仕掛けや仕組みはまだまだのような気がする。

そもそも美術館とは何をしに行くところなのか？「心の遊び場」や「自分の家のリビングと思える」美術館を謳う大分県立美術館では、気軽に人が集まれる場所として無料ゾーンも多く、独自の書籍を集める情報コーナー、レストラン、ショップ、カフェの他、1階アトリウムの「ユーラシアの庭」と3階「天庭」にも作品群が展示されている。しかし県立美術館のメインは何といってもコレクション展示室だ。美術館はそもそも作品が展示されており、それを見に行く場所である。そのときに知識や情報ではなく自身の眼でモノを視ることができれば、展覧会を楽しむことができる。

OPAM開館時のモダン百花繚乱展では、作家の制作年代や作家別の展示ではなく、壁に掛かる作品も、通常多くの美術館で展示する高さではなく、もっと高いところ、あるいは低いところにも展示された。まさにインスタレーション的な展示に戸惑った来館者も少なくなかったのではないだろうか。「見る」から「視る」へ身体が変わった時、人は視る快楽に浸される。開幕展の一つの方向として、見た人の心に戸惑い、疑問、違和感などが浮かんだのであれば、それはまさに作品を見るから視るに変化し、その人自身が新たな作品空間に出会った第一歩にほかならない。実はこの戸惑いこそが重要だ。戸惑いや違和感が生まれた人こそ、その気持ちを携えたまま、ひたすら「見る」を続ける。すると本来の「視る」行為を取り戻せるのだ。

子供の視線と視点

作品を「見る」から「視る」へ。自らが積極的にモノを視ることが大切だと今までに散々語った。しかし「視る」ことそのものが快楽だと心の底から感じなければ、結局は、作品は難しい、作品は頑張って見なければいけない、ということになりかねない。そのあたりを考える上で、子供の視線と視点について考えてみたい。

どうせ小学生、特に低学年は作品なんか見ないし、見てもわからないと本気で思っている大人がいるらしい。そんなことはまったくない。彼らはちゃんと作品を見ているし、実に多くのコトを感じている。小学生でも低学年の方が、目の前に在る作品を目の前に在るモノとしてとらえているため、よく見るし、感じるし、楽しんでいるというよいだろう。それがいつからか作品の意味を問うことを大人の方が求め、感想文を書いたり、意見をまとめて述べたりする機会が増えてくる。そして大きくなればなるほど、私には作品がわからない、と言う子供が増えてくる。これが館長の言う「鑑賞という墮落」の始まりなのではないだろうか。

そもそも「わかる」とは自分の眼でモノを視て感じることだ。作品の内容やメッセージを絵から読み解く図像学にしても、表現が新しい、あるいはテーマが社会的・今日的であるという現代美術にしても、そこには予め知識が要求される。しかし、あくまで美術作品。作品との出会いがあって、すべてはそこから始まる。この作品の「意味を知りたい」「何でつくられたか(素材)を知りたい」「どうやってつくられたか(技法)を知りたい」「作家について知りたい」「ほかの作品を知りたい」「同時代の他の作家を知りたい」「美術史の中での位置(重要性)を知りたい」等々、知的好奇心とでもいうのか、そういった意識に目覚める人もいるだろう。しかし一方では、作品を見て「ふーん」で終わる人もいるだろう。美術館で作品を見た時に、よかった、素晴らしかったとか、何かがわかった、とても勉強になった、と感動して帰らねばいけないわけではない。勉強するのではなく、楽しむための場。学びのためではなく、遊びの場としての美術館。中にはただ遊ぶだけでいいのか、楽しければいいのか、といった意見もあるだろう。もちろん、それでいい。それが大切だ。

視るのは楽しいから、美術館へ遊びに行く

そう、美術館は遊びに行く場所なのだ。この時の遊びとは、娯楽や息抜きを指すのではなく、真剣に全力でモノゴトに向き合うことと考えてみたい。例えば子供のころ、鬼ごっこや缶蹴りをして遊んだ時の集中力。鬼から逃げる時に身体能力を全開にしたり、缶蹴りでは仲間を助けるために感覚と知恵を全力で巡らせたのではない。遊びの中からの発見はもちろん、遊びに夢中になって取り組む身体と感覚は大切だ。もう一つ。「視ること」そのものが楽しいと思えれば、必ず美術館へ足は向く。そう考えると、美術館へ行くという行為は娯楽や息抜きと変わらないのではない。娯楽のため、息抜きのために美術館へ行く。だって視るのは楽しいから。しかし現実に週末、展示室で子供の姿を見かけることはまだまだ少ない。どこか学びの場というイメージが強く、楽しくない、息が詰まる、などの気持ち強いのかも知れない。さらに、もしかしたら、美術館を訪れた時の感想として「つまらなかった」と言っはいけないのでは、と思っているかも知れない。

展覧会に行き、つまらない、という気持ちが起ることは、決して少なくない。自分の眼で見るからこそ、その日その時の気分が変わるからこそ、さまざまな感動が生まれる。好き嫌いで見る。欲しい、欲しくないで見る。自分の家に飾りたい飾りたくないで見る。自分に近い視点、個人の嗜好性で接するほど、さまざま感情が生まれる。同じ作品でも見る気分によってまったく異なる感想が生まれることもある。そうした中での「つまらない」。その感動は大切にしなければならない。「つまらない」があるからこそ、「面白い」時もあるだろう。

遊びとは、娯楽や息抜きを含めて、心の豊かさを保つためにあると思う。それには能動的な姿勢になるかどうかがキーである。つまり「楽しい」と感じるかどうか。そこで美術館の教育普及活動は何をすべきか。簡単に言うと「自分の目でモノを視ると楽しいでしょ」ということを伝えることだと思っている。美術館に在る作品は人が創ったもの。今まで知らなかったモノと出会う感動が「美術する」一つの答えであるならば、美術館での作品との出会いは、人の歴史の中で創り上げられてきたものとの大いなる出会いの場である。それを自分の目で視るということだ。開催される講座やワークショップ、ギャラリートツアーはすべて、自分でモノを視る楽しさを知るための手段であり、目的ではない。遊びの場としての美術館に来てもらうためである。

教育普及活動が必要なくなる日をめざして

ここまで子供の視線と視点から遊びを考えてきたが、では子供と大人の差はどこにあるのか。長く生きていけば経験や知識は増えるが、感じることに関しては大差がない。美術館へ行くことを、子供を例にとってみたが、これは大人にも当てはまる。ワークショップでは場合によっては子供から大人まで対象年齢を広げると、親子でも先生・生徒でもない不思議な関係が生まれる。何よりも好奇心を強く持てるようになれば、視ることが楽しくなり、自ずと美術館に足は向くということだ。それは子供も大人も変わらない。

遊びの場としての美術館を考えていく上で、教育普及グループでは、好奇心を触発するためのワークショップをはじめとした講座、教材ボックス、さらには情報コーナーの書籍と、すべてが緩やかに連動した活動を行っている。美術館の図書という美術書が多いかも知れないが、ここでは美術関連書籍は極めて少ない。美術館は作品が展示されているところなので、美術のこのを見たいのなら実物を展示室で見てほしい。この書籍は絵本や図鑑、他分野のものも多い。好奇心を触発し、視る快楽に誘うためだ。

今年度すでに開催した事業の範囲と数は、全国の美術館の中でも決して少なくないだろう。この数や幅の広さは、美術とは幅が広く、日常に在ることだからと考えているからだ。好奇心が触発され、モノを視るのが楽しくなり、自身の身体と感覚が目覚めていけば、自分で遊びの場としての美術館が楽しめるだろう。このような活動の先に、将来的には美術館の教育普及活動が必要なくなる日が来ればいい。みんなが自分の目でモノを視る楽しさを知ったのなら。その日をめざして活動を続けていきたい。

(榎本寿紀)



II. スクール・プログラム

美術には答えがない。だから面白い。

教育普及グループでは、子供から大人まで、自分の眼で作品を“視て”楽しむことを目指した活動を行っている。美術作品を見るときは、きわめて個人個人の視点で見ることなので、教える・教えられるという関係ではない。美術そのものの本質がそうなのであって、他とは異なる点だ。その中で、学校との連携としてスクール・プログラムがある。

もしも学校が美術館を訪れるならば、先生が自分の生徒を連れて一緒に作品を見ながら、互いに思ったことを喋るギャラリートourが良い。先生が個人として、一緒に見ることを楽しむ形で参加する。先生も生徒も一緒にの視点で見ることができるのが、美術の面白いところである。作品のことを教えなければいけないわけではない。作品を見た時の意見を活発にさせるために、何かをしなればいけないわけでもない。きちんと作品を見るために、進行させなければいけないわけでもない。“一緒に視る”というスタンスは、その人にしかできない、ということである。私にしかできない、今日のこの瞬間にしかない、ギャラリートour。そういった、先生自身が楽しんでやれるようなギャラリートourを目指したい。中には、いつやっても、誰がやっても普遍性のあるギャラリートourが必要不可欠という考えもあるだろうが、実際に行う人が楽しまないでどうする、と思う。これは技術や美術史の知識とはまた別の話だ。そのための準備段階として、学校との連携プログラム「びじゅつかんの旅」や「先生のための講座」、そして将来の来館を想定して「アウトリーチ・プログラム」を実施している。



びじゅつかんの旅

旅には日常とは異なる新しい出会いの要素が含まれる。学校が美術館を訪れる「びじゅつかんの旅」は、感覚を活性化しながら、自分の眼でモノを視ることで作品と出会う体験プログラムだ。通常の団体見学受入とは異なり、作品の解説ではなく、美術館スタッフと“一緒に視る”視点で美術館内を巡るギャラリートourである。これは「みんなの土曜アトリエ 体験から鑑賞まで」で実施している内容に近い。この「びじゅつかんの旅」では、滞在可能な時間により、身体をダイナミックに使う美術体験や、時には制作を行い、館内や展示室へ向かう。

びじゅつかんの旅したく

どこかに出かける旅。そこでは新しい出会いが待っているだろう。どんな出会いが待っているか、期待を膨らませる時間はワクワクする。“一緒に視る”をコンセプトに「びじゅつかんの旅」を始めたが、事前に子供たちが美術館スタッフと仲良くなっていけば、展示会と一緒に見ることが待ち遠しくなるだろう。子どもたちが美術館へ旅する前の準備として、我々が学校を訪ね、身体と感覚を活性化させる美術体験「びじゅつかんの旅したく」を行っている。

びじゅつかんの思い出

思い出を形に残す。それはまた行きたい、今度はどんな旅をしよう、という気持ちにつながる。「びじゅつかんの旅」を実施した後、ふたたび我々が学校へ行く「びじゅつかんの思い出」は、そんな思い出づくりのためにやっている。館内で撮影した写真をもとに、気になったコレクション作品を絵本などにまとめる。美術館で過ごした印象が、手を動かすという能動的な行為が加わることで、少し思い出深くなるようにとの思いから行っている来館者向けの「どなたでもワークショップ アトリエ・ミュージアム」と共通している。これをきっかけに、家族で、友達と、一人で、美術館への来館を期待したい。

びじゅつかんの旅

竹田市立久住中学校 1年生 | 竹田市久住町 |



— びじゅつかんの旅したく —

「ふわもこ3」

OPAM教育普及人気プログラムの一つ「ふわもこ3」。ふわもこを3つ同時に体育館に広げた。中学1年生21名は自分たちで遊び方を考え、次から次へといろいろな空気の形をつくった。彼らは休み時間など関係ない。その元気のよさと想像力は、翌週訪れた美術館でも発揮される。



— びじゅつかんの旅 —

美術館では最前列が一番いい場所ではない！離れて見て初めて感じられることもある！ということで、作品との距離を意識して数点見た後は各自で作品を見る。抽象絵画をいろいろな形に見立てて楽しんだ。



2年生

— びじゅつかんの旅したく —

「身体のワークショップ」

「身体のワークショップ バンブーボディ」のために来県したコンテンポラリーダンスカンパニー86B210の鈴木富美恵、井口桂子両氏に、学校での身体のワークショップをお願いした。教室で軽くウォーミングアップ後、目隠しをして多目的ホールまで移動。ホールでは音のする方に歩いてみたり座ったり寝ころんだり、目隠しをしたまま行った。約40分間、目隠ししっぱなし。初めは足元がおぼつかなかったが、だんだん皮膚感覚や聴覚が敏感になってきた。86B210の2人が久住の風景から考えた振付を行う。山。山。山。雪が解ける～。モグラ除け～。竹を割って。モコ！鳥居！雀がたくさん飛んでいる！最後に自分のポーズ!!そして短時間で覚えたこの振りを、目隠しして行った。普段使わない感覚に触れたワークショップになった。



— びじゅつかんの旅 —

翌週、美術館に来館。2グループに分かれ、展示室で「見えないけど感じる」「描いていないけど感じる」をテーマに、数点をスタッフと一緒に見る。その後は生徒たち同士、あるいは一人で、自由に作品を見た。

竹田市立緑ヶ丘中学校 1年生 | 竹田市荻町 |



— びじゅつかんの旅 —

「美術館をまるごと楽しんで♡」

初めての大分県立美術館。1年生13名が来館した。まずは実体顕微鏡、双眼鏡、そして聴診器と鉛筆キャップを持って、身体で視る建築ツアーを行う。天井、床、壁など建物を観察しつつ、ある時はしゃがみ、ある時は壁に触りながら館内をウロウロする。そしてコレクション展示室へ。2時間たっぷり美術館で過ごし、お気に入りの場所、人におススメしたい作品を探した。



— びじゅつかんの思い出 —

「飛び出す絵本 OPAM 編」

子供たちが来館した次の週、我々が学校へ行き、飛び出す絵本をつくった。まずは美術館で作品と一緒に撮った写真を見る。その写真をコラージュし、飛び出す絵本形式にして、美術館の印象や作品を振り返る。みんな制作に熱中し、授業時間内には終わらず。その後2か月かかってようやく完成した作品は、美術館2Fの教育普及スペースに展示した。



豊後大野市立朝地中学校 全学年 | 豊後大野市朝地町 |



— びじゅつかんの旅したく —
「ふわもこギャラクシー」

全校生徒43名で直径8mの布を掛けて「ふわもこ」を存分に楽しむ。膨らませた卵型の巨大な布に宇宙の映像を投影すると、「きれい、きれい」の声が止まらない。最後はみんないっせいに手を放して、空中に布を浮かせることに挑戦。見事に成功した。

— びじゅつかんの旅 —

翌週来館した子供たちは、学年混合の3グループに分かれ、建物とコレクション展示室を見ながら、行く先々の場所や作品と一緒に写真を撮影。その写真を使ってミニ絵本をつくり、たっぷり3時間過ごした。



明星幼稚園 年長組 | 別府市 |



— びじゅつかんの旅 —
「コロコロピンポン」

別府からバスに乗って年長組の園児60名が来館した。開館前にアウトリーチ・プログラムで会った時に比べ、大きくなっている。その時は全園児180名で竹を転がしたり積んだりして遊んだが、そのことを結構みんな覚えてくれていたのが嬉しかった。この日使ったのはピンポン玉。最初は1人1個を弾ませたり、真上に投げたり。だんだん数を増やし、最後は約3000個のピンポン玉を使って元気いっぱい盛り上がった。その後、3Fのコレクション展示室に行き、いろいろな絵や彫刻を見た。初めての美術館だがあっという間の2時間で、まだまだ遊び足りない様子の子供たち。次は家族と一緒に来てほしい。



明星幼稚園 年中組・年少組 | 別府市 |



— びじゅつかんの旅したく —
「超・ぼわんぼわん」

園児約100名と一緒に、目に見えない空気をテーマに遊んだ。初めはゴミ袋を振り回し、風船にしてみる。その後、10mもの長さの黒い袋を持って体育館を走り周ると、まるで黒い竜が踊るようだった。最後は10m四方もの超特大ビニール袋に空気を入れたオブジェを作り、みんなでゆっくり動かした。年中組の子供たちは来年度「びじゅつかんの旅」で来館する予定だ。

大分県立南石垣支援学校 高等部2年生 | 別府市 |



— びじゅつかんの旅したく —
「静かなるアクションペインティング」
まだ買ったばかりの真っ白いロール画用紙。封をビリビリに破き、3本を貼り合わせて大きな画面にする。クレヨンぐるぐる動かして、全身で描いたり、カラーインクと水彩絵の具をまき散らしたり。最後はフット・ペインティングで画面全体をカラフルにした。



— びじゅつかんの旅 —

ベデストリアンデッキを渡ると、もうそこは美術館。迫力のある建物に生徒たちはすでに興奮気味。アトリウムでは、空間と一体化して揺れるマルセル・ワンダース氏の作品に身をゆだねていた。企画展「神々の黄昏」展に入ると、静けさの漂う展示室で、作品の前に無言で佇む姿が見られた。特に中上清氏の作品の前では光に包まれたような感じがするの、目を離さない生徒が多かった。

大分県立日出支援学校 中学部全学年 | 速見郡日出町 |



— びじゅつかんの旅したく —

「静かなるアクションペインティング」

「絵の具が手や足に付くのを嫌がる生徒がいるのですが…。そんな先生の心配は、どこへやら…。気が付くと、みんな絵の具の海で遊びまわります。少しヌルヌルした絵の具は思ったよりも気持ちよく、いつまでもやめられなかった。

— びじゅつかんの旅 —

OPAMモニュメントでは、カタチの間に身体を入れたり、鏡面に自分の姿を映したりして、大盛り上がり。展示室では、春の植物を見たり、鳥を探したり…。「最後は、もう一度見たいところに行ってみよう?」「あっ!走らないで!」。思わず走り出しそうになる。世界時計の前に急ぎ足で向かう生徒、マルセル・ワンダース氏の卵に向かう生徒。自分の興味にあわせて、もう一度、隅から隅までじっくりと見て楽しんだ。

大分県立日出支援学校 高等部3年生 | 速見郡日出町 |



— びじゅつかんの旅したく —
「静かなるアクションペインティング」
クレヨンを思いのままに走らせている。ひたすら緑の芝生を塗り込んでいる。一人ひとりが自分の世界を広げている。そのうち線と色が絡み合って不思議な模様を浮かび上がらせる。絵の具をまく。筆を大きく動かす。手や足を筆のようにしてみる。画面の上を色が泳いでいるようだ。



— びじゅつかんの旅 —

須藤玲子氏の作品(水分峠の水草)を、真下から見上げてみた。折紙が得意な生徒が「織り」に興味津々。穴が空きそうなど見ていた。展示室では、高山辰雄の作品を目から見たり近づいて見たりなど、いろいろな距離で見て楽しんだ。アトリウムに戻って、美術館の思い出を写真と絵で表現した。あっという間に画面いっぱい描き上げ、大事そうに持って帰っていった。

アウトリーチ・プログラム

大分県は公共交通機関が整っていない地域も多い。だから移動手段はもっぱら車が中心だ。18歳になって免許を取得すれば、自分の意志で好きなところに行きやすくなる。しかしまだ免許が取れない中学・高校生には、自力で本数の少ないバスや電車を乗り継いで、大分市内の真ん中にある美術館へ行くにはハードルが高いと思える。小学生に至っては、友達同士で美術館に行こうと思った時に、実際に可能なのは、美術館周辺に住んでいる子供に限られてしまうだろう。

来られないのなら、美術館から出向く。それが県立美術館教育普及の仕事の一つだと考える。なかなか大分市内に行く機会のない子供たちの住む地域で美術体験を行えば、大人になっても、美術館が身近に思える存在になるかもしれない。大人になってから、たとえ大分ではなくても、高校の修学旅行や初めてのデートでも、どこかの場所で「美術館があるなら入ってみる？」と思うことにつながれば、おそらく新しい体験が待っていると想像する。そしてやがては大分に帰ってきた時、県立美術館のことを思い出し、行ってみようかと足が向くのではないだろうか。そのくらい先のことを考えて、今すべき教育普及活動としてアウトリーチ・プログラムを行っている。



姫島村立姫島小学校 | 姫島村 |



「いろいろたっぷり カラフル・インスタレーション」
全校生徒76名と一緒に、色とりどりのカラーテープを転がしたり、ちぎってまき散らしたり。いつもの体育館がカラフルになった。



「姫島色をつくる～いのちの色・植物」
「大分県から絵の具をつくる」の姫島色シリーズ。身近な植物から染料を抽出して絹の布を染めた。最初に学校の周りで染料となる植物の採取を行う。今回は雑草ブレンドの染色。いろいろな植物を混ぜながら染液を抽出すると、においも複雑になってくる。染液に布を浸し、一晩放置して自然冷却した。「意外と染まってる!」。翌日の朝一番、子供と先生の第一声だ。この布を酢酸アルミ、木酢酸鉄、それに姫島の拍子水を媒染剤に用いて染めた。拍子水は姫島で湧き出ている炭酸泉だ。鉄分を多く含む、他の金属イオンも含むため、どんな色に発色するのかやってみないとわからない。ワクワクしながら浸した。30分の媒染後はもう一度、染料液に浸し、濃く染めた。身近な植物から抽出した5グループのブレンド染料、そして姫島だけの拍子水を含んだ3種類の媒染液で、計15種類の「姫島色」が染まった。

姫島村立姫島中学校 | 姫島村 |



「姫島色をつくる～いのちの色・植物」
中学校でのワークショップは植物を採集する時間がなく、事前にセイタカアワダチソウを集めておいたものを使用した。葉っぱだけ。花だけ。茎だけ。全部混ぜちゃう。どの部分を使うかによって色は異なる。酢酸アルミ、木酢酸鉄、それに姫島の拍子水を媒染剤に用いて染めた。染色の回数と植物の部位、そして媒染剤の違いにより、淡い色から濃い色まで、微妙に違う20色の「姫島色」ができた。

竹田市立荻小学校 | 竹田市荻町 |



「パンプキン・ブラックをつくる!」
事前に「かぼちゃのタネから絵の具をつくります。集めてね。」という絵手紙を送った荻小学校の4年生。この地域はかぼちゃを栽培する家も少なくない。学校に着くと、たくさんタネ、タネ、タネ…。みんなで集めて我々を待っていてくれた。缶に入れ、電熱器にのせて蒸し焼きにする。それを乳鉢ですり潰し、膠を入れると、真っ黒な絵の具になった。にじみ、かすれ、ぼかしの表現を取り入れ、思い思い好きなモノの絵を描いた。

津久見市立堅徳小学校 | 津久見市 |



「ザ・ピグメント～津久見色をつくる」
赤っぽい。緑っぽい。黄色っぽい。津久見の海岸では色とりどりの石を拾える。並べるだけでもきれいだが、砕いてパウダー状の顔料になった瞬間、驚きの表情は隠せない。10色のカラフルな「津久見色」の絵の具ができた。

別府市立東山小学校 | 別府市 |



「ザ・ピグメント～別府色をつくる」
学校の裏山や通学路、とっておきの遊び場などで集めてきた石から顔料をつくり、絵の具をつくる。ゴツゴツしていてどれも同じような石。これで絵の具ってできるの?という不安顔も、砕いて粉になった瞬間、晴れ渡った。微妙に違う11色の「別府色」は美しかった。

豊後大野市立百枝小学校 | 豊後大野市三重町 |



「ザ・ピグメント～豊後大野色をつくる」
学校の帰り道にみんなで探したという石は、さすが「日本ジオパーク」に認定された豊後大野市ならではの、できあがった13色の「豊後大野色」はどれもまったく異なる色味だった。膠を展色材に好きな絵を描く。友達と色を交換しながら描いた絵はとてもカラフルだった。

佐伯市立色宮小学校 | 佐伯市米水津 |



「ザ・ピグメント～佐伯色をつくる」
山から海岸から集めてできた「佐伯色」は19色。こんなきれいな絵の具ができるなんて、とみんな信じられないような顔つきだった。その後、孔雀石や藍銅鉱など、古来から絵の具として使われていた鉱物や県内各地で集めた石からつくられた顔料を見せると、身を乗り出して見ていた。



「ふわもこ」
大きなビニール袋を持って体育館を走り回ると、その勢いでパンパンに広がる。端を縛れば大きな即席風船の出来上がりだ。ポンポン真上にはじいたり、結んで連結させ、不思議なおブジェをつくったり。続いて直径8mの布を膨らませてダイナミックな巨大卵をつくる。OPAM定番メニュー、通称「ふわもこ」。みんなで元気よく走り回り、あっという間の2時間だった。

先生のための講座

教員を対象にした講座は、美術の授業のネタ探しではなく、先生自らが感じることを楽しむことを念頭においている。現実的に「何を勉強したらいいかわからない」「生徒に何を教えたらいいいかわからない」「コンクールに入選するための絵はどう描いたらいい？」といった悩みを抱えている先生も少なくない。

しかし美術には、答えがない。教える・教えられるという関係ではなく、子供と一緒に感じる、あるいは一緒に作りあげていくことが可能だ。そのため、まずは先生自らが色を楽しむ、形で遊ぶなど、美術作品を能動的に見て、心を遊ばせてほしい。そんな思いから、「先生のための講座」を行っている。



ワタシ・イロをめぐるワークショップ

対象:竹田市教育研究会図工美術部会

「色」をきっかけに、自分のことを振り返りながら作品を視るためのワークショップ。初めに好きな色のカラーインクで名前を描き、それを読めなくする。名前を消す＝別な色・形に変化させるドローイングだ。そして好きな色について、さらに記憶をたどる。題して「自分の原風景の色」。その色を染料系であるカラーインクと顔料系である水彩絵の具を併用してつくる。途中、染料と顔料の違いの話を交えながら、最後は瓶に詰め自分の色を持って展示室に行き、今日の作品を視るきっかけにした。



先生のためのワークショップ

対象:県内教職員

1日目 [絵の具～染料と顔料]

アクションペインティングは、身体が絵筆になった気持ちで画面を走り回ったり、絵の具をまき散らすと、めっちゃくちゃ楽しい。しかし、なかなかそうはいかない場所、ダイナミックにできない場合もある。「静かなるアクションペインティング」は、そんなに激しくできない場所ならではのワークショップだ。クレヨン、水、染料系のインク、それに顔料系の絵の具を順次、描き足していく。そして、その時々水と色が混ざり合う表情を楽しむ。午後はコレクション展示室に行く。作品に溶け込むべく、好きな作品の前でポーズを決める。最後は染料と顔料の話を、オリジナル教材ボックスの話も交えながら行った。

2日目 [作品に溶け込む～もう一度、コレクション展示室へ]

好きな作品の前でポーズを決めた写真から、色や形のイメージを広げてドローイングを行う。前日の「静かなるアクションペインティング」からのトリミングも行った。トリミングは、選ぶという行為により自分の画面をつくることだ。そして最後にもう一度、コレクション展示室を散歩する。同じ作品でも見方、感じ方が変わるワークショップとなった。



すてきな三人組

対象:採用2年目にあたる小学校教員等

目隠しをする人、どんな作品なのか言葉で説明する人、その様子を見ている第三者という三人の視点で展示室を巡るOPAM教育普及グループ・オリジナルの「作品を視るワークショップ」。話をする人は、とにかくよく作品を視なければならない。ここでは作品や作家の知識は無用だ。隅から隅までよく見て、感じたことをわかりやすい言葉で伝えるしかない。目隠しの方はイメージを膨らませて作品を想像する。第三者の視点の方は「私だったらこう話すのに」、あるいは「なるほど」と同意するなどさまざま。3人がそれぞれ異なる視点から「視る」という行為を身体と感覚で行った後、あらためて作品を見ることで、さらによく作品を視る。初めての体験に、戸惑い、楽しみながら作品を視るワークショップになった。



ファーストミュージアム体験事業



事業の概要

平成27(2015)年4月24日に美術館がオープンし、開館記念展に県内すべての小学生(1年生から6年生まで)を招待するファーストミュージアム体験事業が実施された。

「大分県立美術館のオープン为契机に、大分の子もたちを国内外の名画や郷土の名品が一堂に揃う開館記念展に招待し、感性が豊かな児童期に、本物の絵や美術館と出会うことにより、子どもたちにアートを楽しみ、もっと学びたいという気持ちを感じてもらおう」という趣旨である。実施主体は、県知事部局、県教育委員会、大分県芸術文化スポーツ振興財団(大分県立美術館)で構成された「美術館と学校等との連携推進協議会」(通称:協議会)である。

1日1350人…

事業実施期間は、5月6日～7月16日の平日46日間(5日間は展示替え)である。県内児童約6万1000人を46日間で招待すると、1日約1350人。これを10グループに分散させて受け入れるというものだ。つまり一度にバス3台が到着し、135人が美術館に入っていく。その25分後にまたバス3台(135人)が到着する。なんとこれが毎日10回繰り返されるのである。

児童の美術館滞在時間は、1時間45分が設定された。しかし、バスを降りてトイレをすませ、レクチャーを受けて館内に入るころには、すでに30分を過ぎる。館内でのトイレ・給水休憩、出発ゾーンへの集合、出発までの待機時間などを引き算すると、作品を見ている時間は移動時間も含めて50分程度である。

これだけの規模になると、学校との日程調整、バスの確保などはもちろん、児童が安全に移動する、時間通りに到着し、出発するなど、基本的なことを成立させるだけでも困難を極めた。しかしこれは最低ラインであって、事業成果は子どもたちがどのような美術体験をするかにかかっている。サポートスタッフの働きにかかっているのである。

サポートスタッフ

事業開始1か月前(4月10日)、趣旨に賛同した130名を超えるサポートスタッフが集まった。「何か、子どもたちのために働きたい」「美術館がとにかく好きだ」など、強い想いを持った人たちである。事業説明に対しても、「こんなコロナテンのようなやり方で児童に楽しい美術館の時間を保証できるのか」という意見が飛び出すほどである。こうした熱意を推進力として、事業の共通理解をはかり、まずは「美術館そのものを肌で感じてもらうこと」の重要性を確認した。そして、「勉強になった!」という感想よりも、「もっと見たい!」「また、行きたい!」と言ってもらうことを目標として取り組むことにした。

児童と一緒に見る美術館案内

学校は、1グループ(約135名)を、8班(1班17～18名程度)となるように編成した。その1つの班に2名のガイドがついた。役割は、1名が先頭で引率しながらポイントとなる作品のところと一緒に作品を見る。もう1名は作品を見る時のフォローをする。間違えて展示ケースや結界に接触しないようにするだけでも、相当な神経を使った。

また、夏が近づくにつれ、バス酔い、鼻血、嘔吐、気分不快などを訴えたりする児童が増え、その対応にも大わらわ…。その合間をぬうようにしながら、「児童と一緒に見る」「見ることを楽しむ」、そんな美術館案内に取り組んでもらった。

それは、違う…!?

しかし、熱い想いを持ったガイドさんほど、子どもに作品解説をしようと真剣である。そして、休み時間に一生懸命展覧会図録を読み込んでいる。インターネットで調べてくる。ツアー現場を見ると、一生懸命解説している班ほど、子どもの視線が作品に向かっていない…。これは、違う…。

翌週から、ツアーグループに美術館スタッフが引率する班を設定した。見学するよう促したところ、毎回数名が集まり、自主研修が始まった。

ガイドさんの技量は日ごとに

5月下旬、ガイドさんに変化が見え始めた。「うちのグループの子でね、「美術館=絵」と思っている子がいて、絵だから苦手、絵は好きじゃないから、と言っていたのですが…。手を使って見る(手で視界の一部を隠して作品を見たり、望遠鏡を使って作品の一部を集中して見たり)ことで、だんだん興味を持っていく様子が伝わってきました。帰りには「あ～楽しかった～!」と笑顔だったので、とても嬉しかった」とガイドスタッフAさん。

6月中旬を過ぎたあたりからは、ガイドさん同士で、子どもの言葉を拾ってみんなに紹介し合う場面が多く見られるようになってきた。「今日ね、うちの班の〇〇ちゃんがね、…を見て…って言ったんだよ。すごいわねえ」「私は、今日はほとんど説明しなかったよ。だって子どもの方がいろいろと話してくれるから…」「見るだけでいいんですね」「何がよかった?って聞くと、足を止めずに歩きながら見た作品のことも話すんです。歩きながらでも、子どもはしっかり見てるんですね。」

このように、一番変化したのは、もしかしたらガイドさんかも知れない。それは毎日2回の引率。本物の作品を子どもと一緒に見る。子どもの言葉を聴く。そして、もう1回一緒に見る。こうしたことを、繰り返したからである。

さまざまな声に支えられて

美術館には、招待事業期間に館内アンケートなどを通じて、さまざまな声が届いた。例えば、「これは美術館じゃない。考え違いをしている」「子どもが多すぎてゆっくり鑑賞できない」という意見。「小さいうちからこういう体験をさせてもらえるなんて、すばらしい。」「もっとゆっくり見せてあげられるといいですね」などの応援メッセージも多かった。また、直接話しかけてくる方もいた。例えば、長谷川等伯の松林図屏風を遠慮がちに遠巻きに見ている児童に対して、「(私たちに遠慮せず)もっと近くに行って見ていいよ」と言ってくれたお客さん。美術館の近隣の方々もそうだ。「毎日、バスを見ている。よいお仕事ですね。税金はこういうことに使ってほしいわ

ね」とガイドさんに話しかけたカフェの店長とその奥様。先生たちからも「最初はどうかと思ったのですが、行ってよかった」「子どもたちがすごく楽しんでた。美術館っていいところですね」などの言葉をいただいた。こうした声に、ガイドスタッフも、そして美術館のスタッフも支えられた。

「すごくドキドキした」「びじゅつかんは、せかいでステキなばしょ」

お別れの時に、どうだった?と聞くと、子どもたちは、いろいろな言葉を返してくれる。中にはお手紙を送ってくれる学校もあった。「すごいものを見ました。おおいたまごでした。むしがいっぱいかくれていました。すごくドキドキしました。すごかったのしかたです(小1B子)」「みんなが楽しめていたから、びじゅつかんは、せかいでステキなばしょだと思いました(小2F男)」「びじゅつかんにいったのは、はじめてでした。一つ一つの絵が違うのでとてもおもしろかったです。また、こんどは、家族で行って、ガイドさんみたいに、家族のみんなを案内してあげたいと思いました(3年N子)」。

ファーストミュージアム体験事業での学校来館人数は、児童60,947人、引率教員等4,836人、計65,783人。このファーストミュージアム体験事業が、子どもたちが美術館に関心をもつ、なんとなく美術館に足を運ぶ、学校が美術館で授業をしてみる、お家の人が子どもと一緒に美術館に行ってみるなど、美術館を身近に感じるきっかけとなったとすれば、大変うれしいことである。



木村典之 | Noriyuki Kimura
大分県立美術館 学芸普及課主幹 教育普及担当

大分大学大学院を修了。中学校で美術の授業とピンボンの顧問を担当。きむきむ先生と呼ばれ続け、ん?年間。いまは学校と美術館を結び付けるべく奮闘中。これで何かできそう…と思うと、モノが捨てられない。最近では毎日もずくを食べてカップを集めている。



II. スクール・プログラム

学校と美術館の連携

ファーストミュージアム体験事業を通して、学校と美術館の連携に向けての課題と推進の方向性が見えてきた。

低学年には無理？

ファーストミュージアム体験事業の準備段階、協議会では、招待する対象について激論が交わされた。「小学生に鑑賞させるなんてありえない。しっかり鑑賞できる中学生に見せるべきだ!」「小学校1年生だからこそ見せるべきだ、小さなうちから本物に触れさせることが大切!」などである。これは、「低学年に絵を見せてもわからないのでは?」という考え方と、「低学年も作品からいろいろ感じる事ができる!」という考え方が真っ向から対立した構図である。まさに、鑑賞?教育?をめぐる課題が浮き彫りとなった。

学校からも、意見をいただいた。「私たち(先生)が、美術ってどう見たらよいかよくわからないのに、どうやって子どもに教えればいいのか?」「低学年に見せるのは早い!」「事前に見に行ったんだけど、内容が難しすぎる!」「ただ、見るだけでいいの?」などである。

これらの意見には、学校と美術館が連携する時の重要な視点がかくされているように思う。例えば、「低学年には早い」は、協議会での議論とよく似ている。もしかしたら、保護者も含めて一般的に、そう思われているのかもしれない。「ただ見せるだけでいいの?」には、「作品のことや見方のことなどをあらかじめ学習しておかないと作品を理解させることはできない」という学習指導観がみえてくる。

自分の視点で見る

美術館でよく見る光景。「あっ!これ知っている」と言って見たつもりになって、もう次の絵を見に行っている。「これいくらなん?(値段)」「これって有名な?」と聞いてくる。社会的評価を根拠として良さを判断する子どもも少なくない。また、作家名で判断している。解説を読む時間の方が絵を見る時間より長い(あまり絵を見ていない)、なども見られる。特に小学校5・6年生あたりからこうした様子が見られるようになる。それは社会的視点を身に付け始める時期と一致している。自分の視点をもって見る、という体験が不十分だと、誰かの目(価値観)で見ることにひっぱられてしまう。中学年までに「自分の視点で見る」楽しさを十分に体験しておくことが大切だと思う。

子どもは見ている! 感じている!

では、低学年はどうだろう。実際子どもたちを案内してみると、驚くべきことが起きる。大人が「難しい」と言った展示を、どの子もまっすぐまなざしで見ているのである。何かしら感じているのである。それは、子どものつぶやきに耳を傾けてみるとわかる。「大きい…」とか「きれい…」とか、つぶやいている。「あそこに…がいるよ」と指差して教えてくれる。「先生あのね…」と絵から思い付いたお話をしゃべっている。

言葉だけでなく、目や身体に出る場合もある。展示室に入るやいなや、周

りをきょろきょろ見渡している(展示空間を感じている)。作品の前にずっと立ち止まる(気になる作品を見つけた)。作品のある1点をじっと見ている。目を見ひらいて見ている。絵の前に無言で立ちつくしている。作中の人物のポーズを真似している。引率者が何も言わなくても、子どもは身体全体で感じているのである。

一緒に面白がる

何を見て、どう感じたか、そしてその反応には個人差がある。しかし、その個人差が「見る」ことを一層豊かにする。そしてそこでは、一緒に見る人の関わり方が大切になる。ロバート・ライマンの「君主」という作品。「ほら、あそこに神様がいますよ(児童A)」「え?どこ?(ガイドA)」「ほら、あそこだよ(児童B)」「あっ!ほんとだ、いるいる(B男ほか数名の児童)」「……(ガイドA)」。スタッフルームに戻って、みんなに報告。「どうしていいかわからなかった…。だって、真っ白の絵だよ。そこに神様がいます、見えるっていうんだもん(ガイドA)」「いや、本当に見えているのかも…(ガイドB)」。ウィリアム・モリスのタペストリーを見て、「魔法の絨毯みたい…。丸山直文の「アピアー」を見て、「ジェリー・ビーンズがふっってくる…」「ここまでくると詩人ですな(ガイドC)」。

子どもたちの素直な感情に対しては、大人も、子どもの頃にもどった気分で、同じ位置から見てみる、本当にそう見えるか試してみる、一緒に真似してみる、一緒に面白がってみる。…そんなことでよいのではないだろうか。一人で見えることも楽しいし、誰かと一緒に見るのも楽しいのである。

何でも言える雰囲気

子どもが素直に感じたことを話せるかどうかは、その集団の雰囲気由来する。そのため、学校での指導や美術館で一緒に見る人の言葉かけはとても重要となる。

吉原治良の「無題」。白と黒だけの絵画。大人が、「これは無理…」と言っていた作品。子どもたちは、「目玉だ!」「ドーナツだ!」「タイヤだ!」と好き勝手に言っている。「そう。みんないろいろなものに見えるみたいね。他には…?(ガイド)」。そのうち、「あそこに、子どもがいる(児童A)」「あっ、ほんとだ!(児童B)」「赤ちゃんじゃない?(児童C)」「わかった、お母さんのお腹の中?(児童D)」「え?どう見たらいいの?どこを見たの?教えて?(ガイド)」「ほら、ここだよ。ここのかたち見て!(児童A)」。こんなやり取りも…。「結局、これは何ですか?」などという質問は出ない。見て話すことを楽しんでいるのである。何でも言える雰囲気だと、いろいろ言葉が生まれ、そこから新たな視点が広がるのである。

周りの共感的態度に対して、もしかしたら、心の中で「そうかなあ?」「わからない!」と思っている子どももいるかもしれない。しかし、それも大切な感情だと思う。美術館には、興味のもてる作品もあれば、もてない作品もある。美術では、それが許されるということが前提だ。

「大きな卵みたいなものがありました。よく見ると、虫の絵が描いてありました。遠くから見ると、きれいなドクロのようなものがみえました。私は、黒の中に白い輪がある作品(吉原治良)はよく分かりませんでした。芸術は、難しく、よく分かりませんが、美術館に行くと、とてもわくわくしました(小6 M子)」。

本物に出会う。見方を変えると楽しみ方も変わってくる

美術館としては、小さいうちから本物に出会ってほしいと考えている。そして、わかる、わからない、ではなく、身体全体で感じる事が大切だと考えている。きれいだな…とか、なんとなく好きかな…とか、ちょっとホッとする…とか、なんだか嫌な気分になる…とか、そんな率直な感情を抱いてもらえれば、それが一番いいことだと思う。「あそこ青いところ手で隠して見てみたら…(ガイドA)」。最初に見た印象と感じがどんどん変わってくることもある。1枚の絵でも、見方を変えると楽しみ方もその数だけ増えていく。「気に入ったのは、ピカソの絵です。白いところをかくすと、よこをむいている人で、緑の部分をかくすと、ぎゃくのむぎに向いていると見えました。もうひとつは3階の足でかいてある絵です。足あともかもあって、おわりのところだと思ふところがかたまっていました。すごかったです(小3 K男)」。

美術をみんなで楽しむ、自分の世界で楽しむ

福田平八郎の「水」とモネの「睡蓮」。比べて見てみよう。どっちが好き? あれ?先生も指さしている。「手で望遠鏡を作って、あの光ったところを見てみると…(ガイド)」「あっ!動いているみたい(児童)」「ほんとだ!(先生)」「本物の水みたい!(児童)」。なぜか先生も一緒に混ざってやっている。「カッパがでてきそう(子ども)」「あっ!ここだね(ガイド)」「えっ。どこどこ?(先生)」。先生が一番身を乗り出して見ている。子どもも先生と一緒に見ていてとても楽しそうである。

美術館に行ってみると、「別にこの作品に興味はないけど」と思いつつ本物の迫力に圧倒されることがある。不思議な絵に頭をかかえることもある。鮮やかな色彩にうっとりすることもある。そうしていると、「さあ、次行くよ」と言われ、いつの間にか夢中になって見ている自分に気づく。「はっ!」として我に返った時、没頭していたことに気づく。それは、ほんの一瞬の時もあれば、結構長い時間のときもある。そんな、夢の世界を旅しているような時間が大事だと思う。

美術を、みんなで楽しむこと、自分の世界で楽しむこと。それを行ったり来たりできるのが、学校で美術館に行く時の一つの楽しみ方だと思う。そんな美術館での豊かな時間を、子どもと先生とスタッフとみんなで一緒につくりたいと思う。

(木村典之)

美術館体験講座

～本物の作品を地域や学校で見～

大分県立美術館では、感性が豊かな時期に、本物の絵、美術館と出会う機会を提供するため、大分県内の約6万人の小学生を開館記念展に招待したが、中学生に対しても、実物ならではの美しさをじっくりと感じ取ってもらう機会を提供していきたいと考えている。

◎大分県立美術館巡回展(佐伯) 中学生美術鑑賞体験
(会場:佐伯教育市民ホール「まな美」)

佐伯市教育委員会との連携により、佐伯市内の中学生を対象に実施。中学校7校から約400名が参加した。ギャラリーには、日本画の高山辰雄、佐伯市出身の菅一郎など大分県を代表する作家の作品を中心に14点の作品を展示。彫刻を後ろから見たり、下から見上げたりして楽しんだ。レクチャー室では福田平八郎の「花菖蒲」を1点だけ展示。下絵の描かれているスケッチ帳を、学芸員が1枚ずつめくって見せた。生徒たちは本画と下絵を比較し、制作者の目線で作品を味わっていた。

◎スクールミュージアム in 玖珠中学校
(会場:玖珠中学校体育館)

玖珠町教育委員会及び玖珠中学校との連携により実現した1日限りの学校美術館である。日本画の岩澤重夫、彫刻の日名子実三など大分県を代表する作家の作品を中心に24点の作品を展示した。学校は国語科と美術科が協働して、作家調べのプレゼンテーションに取り組んだ。美術館は研修を積んだガイドを派遣し、色や形で楽しむ鑑賞ツアーを実施。実物でしか見ることのできない細部の表現やテクスチャーにも注目が集まり、見ることへの意識がぐんと高まった。

|連携プログラム

連携プログラムとは、美術館を活用した美術体験を、学校や教育機関等と美術館とが共同で企画・実施するものである。

◎大分県教育センター教育相談部(ボランの広場)との連携

対象は、ボランの広場に通う中学生。①美術館訪問→②ボランの広場で顔料づくり→③美術館訪問というサンドイッチ方式のプログラムである。顔料づくりは、レクチャーを受けた教育相談部職員が指導。2回目の美術館訪問では、顔料を絵の具にして、描き味を試してみた。展示室では、色に注目して見る、描き方に注目して見るなど、自分の視点をもって見る様子がみられた。

◎大分県立盲学校との連携「空気のかたちを追いかける」

対象は、小学部の児童。たくさんのビニール袋をばらまいたり、空気を入れて膨らませたりして遊んだ。ビニールどうしのカサカサとふれあう音や摩擦で起きる静電気なども感じて楽しんだ。最後は5mもある大きなビニールの登場に、大はしゃぎ。ぼんぼんたたいたり、上に乗ってみたい、身体を思いっきり預けるなど、大いに盛り上がった。



大分県内アウトリーチ&フィールドワーク実施地図

山へ、川へ、海岸へ、離島へと、県内いたるところに出かけて教材ボックス制作のフィールドワークを行い、学校や公民館などでアウトリーチを実施した。活動は現在進行中、そして今後も継続予定。各地でご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

アウトリーチに出かけたところ

- | | | | |
|--------------|-----------------------|----------------|---------------|
| 1 姫島村立姫島小学校 | 8 大分県立南石垣支援学校 | 15 佐伯市立米水津中学校 | 23 竹田市立緑ヶ丘中学校 |
| 2 姫島村立姫島中学校 | 9 臼杵市立北中学校 | 16 佐伯市立色宮小学校 | 24 竹田市立荻小学校 |
| 3 国東市立熊毛小学校 | 10 臼杵市中央公民館 | 17 豊後大野市中央公民館 | 25 大分市立川添小学校 |
| 4 中津市立真坂小学校 | 11 津久見市立堅徳小学校 | 18 豊後大野市立百枝小学校 | 26 大分大学附属幼稚園 |
| 5 日田市立津江小学校 | 12 津久見市立保戸島小学校 | 19 豊後大野市立新田小学校 | 27 大分大学附属小学校 |
| 6 大分県立日出支援学校 | 13 津久見市立保戸島中学校 | 20 豊後大野市立清川中学校 | 28 大分大学附属中学校 |
| 7 別府大学 明星幼稚園 | 14 佐伯市勤労者総合福祉センター 三余館 | 21 豊後大野市立朝地中学校 | 29 大分市立長浜小学校 |
| | | 22 竹田市立久住中学校 | 30 大分東明高等学校 |

教材ボックスのフィールドワークに出かけたところ

- | | | | |
|--------------|----------------|-------------------|----------------|
| 1 姫島 | 11 日田市中津江村合瀬 | 21 豊後大野市 三重町内山松谷 | 31 佐伯市上浦大字浅海井浦 |
| 2 国東市国見町伊美 | 12 玖珠郡玖珠町帆足 | 22 豊後大野市緒方町上畑 | 32 津久見市大字四浦高浜 |
| 3 国東市国見町大熊毛 | 13 玖珠郡九重町右田 | 23 豊後大野市緒方町尾平鉾山 | 33 津久見市網代 |
| 4 国東市武蔵町内田 | 14 玖珠郡九重町湯坪 | 24 竹田市神原 | 34 津久見市上青江 |
| 5 杵築市山香町大字下 | 15 玖珠郡九重町田野 | 25 竹田市志土知 | 35 津久見市楠屋 |
| 6 杵築市山香町大字向野 | 16 由布市湯布院町塚原 | 26 佐伯市宇目大字木浦 | 36 大分市丹川 |
| 7 中津市三光田口 | 17 別府市枝郷 | 27 佐伯市蒲江 大字蒲江浦深島 | 37 大分市横尾 |
| 8 中津市本耶馬溪町曾木 | 18 豊後大野市大野町沈墜 | 28 佐伯市蒲江 大字蒲江浦屋形島 | 38 大分市志生木 |
| 9 日田市大字小野 | 19 豊後大野市犬飼町田原 | 29 佐伯市米水津大字浦代浦 | 39 大分市佐賀関幸の浦 |
| 10 日田市前津江町大野 | 20 豊後大野市三重町上田原 | 30 佐伯市鶴見大字丹賀浦 | 40 大分市神崎 |



実施一覧

一般向けワークショップ&レクチャー

夜のおとなの金曜講座

場所:OPAM 2F教育普及アトリエ、体験学習室
対象:一般

― 視るは楽しい教材ボックス ―

[石の引力]
日時:2015年5月15日(金)18:30～19:30
参加者:10名

[毒にも薬にも絵の具にも]
日時:2015年5月29日(金)18:30～19:30
参加者:14名

[炭酸カルシウムのカタチ]
日時:2015年6月19日(金)18:30～19:30
参加者:12名

[折り紙の布]
日時:2015年7月3日(金)18:30～19:30
参加者:13名

[サ・ピグメント]
日時:2015年8月14日(金)18:30～19:30
参加者:10名

[ハンブー・トイ]
日時:2015年8月28日(金)18:30～19:30
参加者:9名

[染・その魅力]
日時:2015年10月2日(金)18:30～19:30
参加者:6名

[竹工芸の魅力]
日時:2015年10月9日(金)18:30～19:30
参加者:7名

[タネのカタチ～したたかな造形美]
日時:2015年10月23日(金)18:30～19:30
参加者:7名

[写真大公開]
日時:2015年10月30日(金)18:30～19:30
参加者:9名

[砕いて、焼いて]
日時:2015年11月6日(金)18:30～19:30
参加者:7名

[肌触り・触角の覚醒]
日時:2015年11月13日(金)18:30～19:30
参加者:6名

[木に親しむ]
日時:2015年11月20日(金)18:30～19:30
参加者:10名

[特別な染めをする植物]
日時:2015年11月27日(金)18:30～19:30
参加者:16名

― 大分県から絵の具をつくる ―

[関サバ・ボン・ブラックの秘密]
日時:2015年6月5日(金)18:30～19:30
参加者:16名

[幻のイタボガキ胡粉]
日時:2015年7月17日(金)18:30～19:30
参加者:14名

[サ・ピグメント　〇〇色をつくる]
日時:2015年8月14日(金)18:30～19:30
参加者:10名

[松竹梅ビスタ]
日時:2015年8月21日(金)18:30～19:30
参加者:6名

[いろいろなる色の話]
日時:2015年9月25日(金)18:30～19:30
参加者:7名

[イカ墨セピアを触ってみよう]
日時:2015年10月16日(金)18:30～19:30
参加者:4名

― 美術からみた文化 ―

[視点と視線]
日時:2015年12月4日(金)18:30～19:30
参加者:16名

[水のゆくえ]
日時:2015年12月11日(金)18:30～19:30
参加者:11名

[壁面の魅力]
日時:2015年12月18日(金)18:30～19:30

参加者:9名

[光のゆくえ]
日時:2015年12月25日(金)18:30～19:30
参加者:14名

[植物ってすげえ!]
日時:2016年1月8日(金)18:30～19:30
参加者:21名

[想像と創造～ありえない話]
日時:2016年1月15日(金)18:30～19:30
参加者:14名

[陰影礼賛 光のゆくえ2]
日時:2016年2月5日(金)18:30～19:30
参加者:15名

[死なない建築・三鷹天命反転住宅]
日時:2016年2月12日(金)18:30～19:30
参加者:20名

[大人の修学旅行 京都編]
日時:2016年3月4日(金)18:30～19:30
参加者:14名

[身体の表現]
日時:2016年3月11日(金)18:30～19:30
参加者:13名

― 素材と技術 ―

[切る・刻む]
日時:2016年1月22日(金)18:30～19:30
参加者:14名

[竹・素材の変容 道具について]
日時:2016年1月29日(金)18:30～19:30
参加者:12名

[紡ぐ]
日時:2016年2月19日(金)18:30～19:30
参加者:20名

[竹・素材の変容 竹から竹材へ]
日時:2016年2月26日(金)18:30～19:30
参加者:13名

[練る]
日時:2016年3月18日(金)18:30～19:30

[竹・素材の変容 竹の編み方]
日時:2016年3月25日(金)18:30～19:30

どなたでもワークショップ「アトリエ・ミュージアム みんなでつくろっ!」

場所:OPAM 2F教育普及アトリエ、体験学習室
対象:どなたでも

[凸凹石と積み木っ端]
日時:2015年5月9日(土)10:30～12:30
参加者:30名

日時:2015年5月9日(土)14:00～16:00
参加者:64名
日時:2015年5月10日(日)10:30～12:30
参加者:46名
日時:2015年5月10日(日)14:00～16:00
参加者:58名

[カラフルポシュett]
日時:2015年5月17日(日)10:30～12:30
参加者:44名
日時:2015年5月17日(日)14:00～16:00
参加者:74名

[絵本をつくろう]
日時:2015年5月23日(土)10:30～12:30
参加者:28名
日時:2015年5月23日(土)14:00～16:00
参加者:38名

[素描]
日時:2015年5月24日(日)10:30～12:30
参加者:48名
日時:2015年5月24日(日)14:00～16:00
参加者:75名

[カラフル・ミックス・コマをつくろう!]
日時:2015年5月30日(土)10:30～12:30
参加者:38名
日時:2015年5月30日(土)14:00～16:00
参加者:43名

[切って、貼って、カラフル コラージュ]
日時:2015年5月31日(日)10:30～12:30
参加者:93名

日時:2015年5月31日(日)14:00～16:00

参加者:62名

[みみをつくろう!]
日時:2015年6月7日(日)10:30～12:30
参加者:45名

日時:2015年6月7日(日)14:00～16:00
参加者:44名

[墨は一発できめる]
日時:2015年6月14日(日)10:30～12:30
参加者:45名
日時:2015年6月14日(日)14:00～16:00
参加者:89名

[墨絵本]
日時:2015年6月21日(日)10:30～12:30
参加者:47名
日時:2015年6月21日(日)14:00～16:00
参加者:52名

[動物をつくろう!]
日時:2015年6月28日(日)10:30～12:30
参加者:56名

日時:2015年6月28日(日)14:00～16:00
参加者:37名

[動物をつくろう! 2]
日時:2015年7月12日(日)10:30～12:30
参加者:42名
日時:2015年7月12日(日)14:00～16:00
参加者:38名

[くちばしマスク]
日時:2015年7月19日(日)10:30～12:30
参加者:40名
日時:2015年7月19日(日)14:00～16:00
参加者:44名

[鳳凰の羽根]
日時:2015年7月20日(月)10:30～12:30
参加者:42名

日時:2015年7月20日(月)14:00～16:00
参加者:53名

[夏休み紙すきスペシャル]
日時:2015年8月13日(木)10:30～11:30
参加者:17名
日時:2015年8月13日(木)11:30～12:30
参加者:12名

日時:2015年8月13日(木)14:00～15:00
参加者:6名
日時:2015年8月13日(木)15:00～16:00
参加者:3名

日時:2015年8月14日(金)10:30～11:30
参加者:8名

日時:2015年8月14日(金)11:30～12:30
参加者:18名
日時:2015年8月14日(金)14:00～15:00
参加者:16名

日時:2015年8月14日(金)15:00～16:00
参加者:4名

日時:2015年8月15日(土)10:30～11:30
参加者:9名
日時:2015年8月15日(土)11:30～12:30
参加者:3名
日時:2015年8月15日(土)14:00～15:00
参加者:6名

日時:2015年8月15日(土)15:00～16:00
参加者:14名

日時:2015年8月16日(日)10:30～11:30
参加者:13名

日時:2015年8月16日(日)11:30～12:30
参加者:15名

日時:2015年8月16日(日)14:00～15:00
参加者:14名

日時:2015年8月16日(日)15:00～16:00
参加者:14名

[まっ黒のすけ]
日時:2015年9月21日(月)10:30～12:30
参加者:26名
日時:2015年9月21日(月)14:00～16:00
参加者:16名

[ハクハク絵本]
日時:2015年9月22日(火)10:30～12:30
参加者:32名

日時:2015年9月22日(火)14:00～16:00
参加者:33名

[バラバラしてみる?]
日時:2015年9月23日(水)10:30～12:30

参加者:42名

日時:2015年9月23日(水)14:00～16:00
参加者:31名

[糸を刷る?]
日時:2015年10月4日(日)10:30～12:30
参加者:31名

日時:2015年10月4日(日)14:00～16:00
参加者:37名

[織紙]
日時:2015年10月11日(日)10:30～12:30
参加者:35名
日時:2015年10月11日(日)14:00～16:00
参加者:22名

[翼をください]
日時:2015年10月12日(月)10:30～12:30
参加者:8名

日時:2015年10月12日(月)14:00～16:00
参加者:8名

[とんとステンシル]
日時:2015年10月18日(日)10:30～12:30
参加者:7名

[しっぽをつくる]
日時:2015年10月25日(日)10:30～12:30
参加者:7名

日時:2015年10月25日(日)14:00～16:00
参加者:4名

[水のゆらめき]
日時:2015年11月1日(日)10:30～12:30
参加者:14名

日時:2015年11月1日(日)14:00～16:00
参加者:11名

[パフェを作ろう　〇〇スペシャル]
日時:2015年11月3日(火)10:30～12:30
参加者:15名

日時:2015年11月3日(火)14:00～16:00
参加者:15名

[カラみの]
日時:2015年11月8日(日)10:30～12:30
参加者:4名
日時:2015年11月8日(日)14:00～16:00
参加者:24名

[つみこっぷ]
日時:2015年11月15日(日)10:30～12:30
参加者:18名

[ふりふりスティック]
日時:2015年11月23日(月)10:30～12:30
参加者:18名

日時:2015年11月23日(月)14:00～16:00
参加者:18名

[しももんを作ろう!]
日時:2015年11月29日(日)10:30～12:30
参加者:24名
日時:2015年11月29日(日)14:00～16:00
参加者:36名

[ごちそうプレート]
日時:2015年12月6日(日)10:30～12:30
参加者:22名

日時:2015年12月6日(日)14:00～16:00
参加者:19名

[ちろりんびろりん 連続紙装飾]
日時:2015年12月13日(日)10:30～12:30
参加者:23名

日時:2015年12月13日(日)14:00～16:00
参加者:12名

[べかべか? ホワイトツリー!]
日時:2015年12月20日(日)10:30～12:30
参加者:17名

[さよなら、ひつじくん]
日時:2015年12月27日(日)10:30～12:30
参加者:20名

日時:2015年12月27日(日)14:00～16:00
参加者:22名

[こんにちは、おさるさん]
日時:2016年1月10日(日)10:30～12:30
参加者:32名

日時:2016年1月10日(日)14:00～16:00
参加者:7名

[そらね、だいたいね]
日時:2016年1月11日(月)10:30～12:30
参加者:23名

日時:2016年1月11日(月)14:00～16:00

参加者:26名

[ふわもち]
日時:2016年1月17日(日)10:30～12:30
参加者:19名

[影絵遊]
日時:2016年1月10日(日)10:30～12:30
参加者:16名

日時:2016年1月10日(日)14:00～16:00
参加者:7名

[フリッパ―]
日時:2016年1月31日(日)10:30～12:30
参加者:35名

日時:2016年1月31日(日)14:00～16:00
参加者:22名

[空とふ羽根]
日時:2016年3月13日(日)10:30～12:30
参加者:18名

日時:2016年3月13日(日)14:00～16:00
参加者:17名

[でんでん]
日時:2016年3月21日(月)10:30～12:30
日時:2016年3月21日(月)14:00～16:00

[桜吹雪満開]
日時:2016年3月27日(日)10:30～12:30
日時:2016年3月27日(日)14:00～16:00

みんなの土曜アトリエ

場所:OPAM 2F教育普及アトリエ 3Fコレクション展示室
対象:3歳以上どなたでも

[ふわもち]
日時:2015年6月6日(土)10:30～12:00
参加者:20名

日時:2015年6月6日(土)14:00～15:30
参加者:16名
日時:2015年6月6日(土)17:00～18:30
参加者:20名

[カラフル・インスタレーション]
日時:2015年6月20日(土)10:30～12:00
参加者:17名

日時:2015年6月20日(土)14:00～15:30
参加者:10名
日時:2015年6月20日(土)17:00～18:30
参加者:10名

[ぼたふわ]
日時:2015年6月27日(土)10:30～12:00
参加者:20名

日時:2015年6月27日(土)14:00～15:30
参加者:36名

[身体で視る建築ツアー]
日時:2015年6月27日(土)17:00～18:30
参加者:5名

[ぼわんぼわん]
日時:2015年7月11日(土)10:30～12:00
参加者:14名
日時:2015年7月11日(土)14:00～15:30
参加者:24名

[身体で視る建築ツアー]
日時:2015年6月27日(土)17:00～18:30
参加者:1名

[セタギャラクシー]
日時:2015年7月18日(土)10:30～12:00
参加者:33名

日時:2015年7月18日(土)14:00～15:30
参加者:16名

[カオカオミュージアム]
日時:2015年7月4日(土)17:00～18:30
参加者:8名

日時:2015年10月10日(土)17:00～19:00
参加者:23名

[コロコロピンポン]
日時:2015年11月7日(土)10:30～12:00
参加者:10名

日時:2015年11月7日(土)14:00～15:30
参加者:3名

[ふわもちギャラクシー]
日時:2015年11月28日(土)10:30～12:00
参加者:17名
日時:2015年11月28日(土)14:00～15:30

参加者:24名

[光の街]
日時:2015年12月19日(土)10:30～12:00
参加者:9名

日時:2015年12月19日(土)14:00～15:30
参加者:2名

[星ふってごころ]
日時:2015年12月26日(土)10:30～12:00
参加者:14名
日時:2015年12月26日(土)14:00～15:30
参加者:15名

[魔法のホウキで空を飛ば]
日時:2016年1月9日(土)10:30～12:00
参加者:12名

日時:2016年1月9日(土)14:00～15:30
参加者:11名

[私の身体が宙に浮く]
日時:2016年1月30日(土)10:30～12:00
参加者:9名

日時:2016年1月30日(土)14:00～15:30
参加者:14名

[今日は積むせ!]
日時:2016年2月13日(土)10:30～12:00
参加者:10名

日時:2016年2月13日(土)14:00～15:30
参加者:16名

[シャドウ・スティック]
日時:2016年2月27日(土)10:30～12:00
参加者:25名

日時:2016年2月27日(土)14:00～15:30
参加者:19名

[みせっこコレクション]
日時:2016年3月19日(土)10:30～12:00
日時:2016年3月19日(土)14:00～15:30

[野菜盛り]
日時:2016年3月26日(土)10:30～12:00
日時:2016年3月26日(土)14:00～15:30

特別ワークショップ&レクチャー

開幕展開連ワークショップ&レクチャー

[内なる光を感じるとき～ 私にとっての光を考える]

講師:中上清(美術家)

場所:OPAM 2F教育普及アトリエ・体験学習室、企画展示室
日時:2015年5月16日(土)10:30～16:30
参加者:15名(高校生～一般)

[まること松本陽子 3つのプログラム

ワークショップ 想像と創造～おおいた魚づくしの巻]

講師:松本陽子(美術家)

場所:OPAM 2F教育普及アトリエ

日時:2015年6月13日(土)10:30～12:30
参加者:23名(小学1年生～一般)

[まること松本陽子 3つのプログラム

実施一覧

セタスターライトエキスプレス関連ワークショップ
[キラキラ☆手作り天の川]
場所:iichiko総合文化センターアトリウム、県民ギャラリー
日時:2015年8月9日(日)15:35~16:45
参加者:49名(4歳~小学2年生とその保護者)
日時:2015年8月9日(日)16:50~18:00
参加者:69名(4歳~小学2年生とその保護者)

[光で遊ぶキラキラボール]
場所:OPAM 2F教育普及アトリエ、県民ギャラリー
日時:2015年8月9日(日)15:40~16:50
参加者:10名(小学2~5年生)

夏休み・親子スペシャル
[カオカオミュージアム]
場所:OPAM 2F教育普及アトリエ、3Fコレクション展示室
日時:2015年8月22日(土)10:30~12:30
参加者:11名
日時:2015年8月22日(土)14:00~16:00
参加者:11名

[とっておきのマラカイト~緑を描く、緑で描く]
場所:OPAM 2F教育普及アトリエ、創作広場3Fコレクション展示室
日時:2015年8月29日(土)、30日(日)10:30~16:30
参加者:9名(一般)

[水彩画法事始め]
場所:OPAM 2F教育普及アトリエ、3Fコレクション展示室
日時:2015年10月10日(土)
参加者:9名(一般)

[鉛筆画を極める? 触ることからはじめよう]
場所:OPAM 2F教育普及アトリエ、3Fコレクション展示室
日時:2015年10月24日(土)
参加者:4名(一般)

[びよこる うさぎのダンス・スーツ]
場所:OPAM 2F教育普及アトリエ、3Fコレクション展示室
日時:2015年10月31日(土)
参加者:13名(小学1~6年生)

「神々の黄昏~東西のヴィーナス出会う世紀末、心の風景、西東」開館記念展vol.2関連ワークショップ
[てくてく参拝。わたしのお願ひ運んでね事前ワークショップ]
場所:宇佐市立宇佐小学校
日時:2015年10月29日(木)16:00~16:30
参加者:13名(小学4~6年生)

[レクチャー 大分県立美術館の教育普及活動について]
場所:宇佐公民館
日時:2015年10月29日(木)17:00~18:00
参加者:11名(宇佐美術協会会員)

[てくてく参拝。わたしのお願ひ運んでね]
場所:宇佐公民館
日時:2015年11月14日(土)13:30~16:30
参加者:19名(小学4年生~一般)

[身体のワークショップ ワタシと向き合う]
講師:菊池ひよ(舞踏家)
場所:OPAM全館
日時:2015年11月21日(土)10:30~12:30
参加者:8名(高校生~一般)
日時:2015年11月21日(土)14:00~16:00
参加者:7名(高校生~一般)
日時:2015年11月22日(日)10:30~12:30
参加者:10名(高校生~一般)
日時:2015年11月22日(日)14:00~16:00
参加者:8名(高校生~一般)

年末クリスマス特別ワークショップ
[ひかりの国は、MOFUMOFUの国]
場所:OPAM 2F教育普及アトリエ、3Fコレクション展示室
日時:2015年12月23日(水)10:30~16:30
参加者:14名(小学1~5年生)

[身体のワークショップ パンブーボディ]
講師:86B210(コンテンポラリーダンスカンパニー)
場所:OPAM 2F教育普及アトリエ、体験学習室
日時:2016年2月11日(木)10:30~12:30
参加者:13名(高校生~一般)
日時:2016年2月11日(木)14:00~16:00
参加者:14名(高校生~一般)

利岡コレクション+大分アジア彫刻展「身も心も」現代アートに恋い焦がれて」展 関連ワークショップ
[エンジェル パタパタ]
場所:OPAM3Fホワイエ企画展示室出口

日時:2016年2月14日(日)10:30~12:30
参加者:6名(4歳~一般)
日時:2016年2月14日(日)14:00~16:00
参加者:5名(小学生~一般)
[箱展]
場所:OPAM3Fホワイエ企画展示室出口
日時:2016年2月21日(日)10:30~12:30
参加者:16名(4歳~一般)
日時:2016年2月21日(日)14:00~16:00
参加者:31名(4歳~一般)
[まほうのこびん]
場所:OPAM3Fホワイエ企画展示室出口
日時:2016年3月6日(日)10:30~12:30
参加者:6名(4歳~一般)
日時:2016年3月6日(日)14:00~16:00
参加者:21名(4歳~一般)

春休み特別ワークショップ
[ヒツジ布をつくる]
場所:OPAM 2F教育普及アトリエ、3Fコレクション展示室
日時:2016年3月29日(火)10:30~16:30
参加者:16名(小学1年生~一般)
[とっておきのアクセサリー]
場所:OPAM 2F教育普及アトリエ
日時:2016年3月30日(水)10:30~12:30
[ニードル・マスコット]
場所:OPAM 2F教育普及アトリエ
日時:2016年3月30日(水)14:00~16:00

連続レクチャー「教材ボックスをめぐる7つのお話」
場所:OPAM 2F教育普及アトリエ・体験学習室
[其の一:大分ふるさと自然史~地面の下は宝箱]
講師:野田雅之(理学博士)

日時:2015年12月5日(土)13:30~16:30
参加者:37名(高校生~一般)
[其の二:ふるさと大分世間遺産]
講師:藤田洋三(写真家)

日時:2015年12月12日(土)13:30~16:30
参加者:44名(高校生~一般)

[其の三:とっておきの白杵磨崖仏~祈りの里、白杵]
講師:神田高士(白杵市文化・文化財課 文化財研究室長)
日時:2016年1月16日(土)13:30~16:30
参加者:42名(高校生~一般)
[其の四:壁を語る~色とテキストチャー、土の力に触れて]
講師:原田進(原田左研 親方)

日時:2016年1月23日(土)13:30~16:30
参加者:40名(高校生~一般)
[其の五:国東の色、宇佐の色~ 文化財科学の視点から]
講師:裨田優生(大分県立歴史博物館 学芸員)

日時:2016年2月20日(土)13:30~16:30
参加者:42名(高校生~一般)
[其の六:布・伝統から生まれる技術と素材]
講師:須藤玲子(テキスタイルデザイナー)

日時:2016年3月5日(土)13:30~16:30
参加者:41名(高校生~一般)
[其の七:教材ボックスは美術・絵の具の宝箱?]
講師:森田恒之(博物学者)

日時:2016年3月12日(土)13:30~16:30
参加者:36名(高校生~一般)

公開ラボラトリー
場所:OPAM 2F教育普及アトリエ・体験学習室
日時:2015年11月 7日(土)17:00~19:00 参加者:10名
11月28日(土)17:00~19:00 参加者: 7名
12月29日(土)17:00~19:00 参加者: 2名
12月26日(土)17:00~19:00 参加者: 3名
2016年1月 9日(土)17:00 ~19:00 参加者: 3名
1月30日(土)17:00~19:00 参加者: 7名
2月13日(土)17:00~19:00 参加者: 7名
2月27日(土)17:00~19:00 参加者:19名
2月28日(日)10:30~12:00 参加者:19名
3月19日(日)17:00~19:00
3月20日(日)10:00~12:00
3月26日(日)17:00~19:00

スクール・プログラム

びじゅつかんの旅

●竹田市立緑ヶ丘中学校
[びじゅつかんの旅 美術館をまるごと楽しんで♡]

場所:OPAM全館
日時:2015年9月1日(火)14:30~16:30
参加者:13名(中学1年生)
[びじゅつかんの想い出 飛び出す絵本OPAM編]
場所:竹田市立緑ヶ丘中学校美術室
日時:2015年9月8日(火)13:50~15:40
参加者:13名(中学1年生)

●別府大学 明星幼稚園
[びじゅつかんの旅 コロコロピンポン]
場所:OPAM全館
日時:2015年10月27日(火)10:00~11:40
参加者:60名(年長組)
[びじゅつかんの旅じたく 超・ぼわんぼわん]
場所:別府大学明星小学校体育館
日時:2016年2月15日(木)10:30~11:30
参加者:102名(年中組、年少組)

●大分県教育センター ボランの広場
[びじゅつかんの旅]
場所:OPAM2F教育普及アトリエ、3Fコレクション展示室
日時:2015年11月6日(金)10:00~13:00
参加者:6名(中学2・3年生)
日時:2016年2月12日(金)10:00~13:00
参加者:6名(中学2・3年生)

●豊後大野市立朝地中学校
[びじゅつかんの旅じたく ふわもこギャラクシー]
場所:豊後大野市立朝地中学校
日時:2015年12月4日(金)10:10~12:15
参加者:43名(全学年)
[びじゅつかんの旅]
場所:OPAM2F教育普及アトリエ、3Fコレクション展示室
日時:2015年12月9日(水)10:00~13:00
参加者:43名(全学年)

●大分県立南石垣支援学校
[びじゅつかんの旅じたく 静かなるアクションペインティング]
場所:大分県立南石垣支援学校
日時:2015年12月4日(金)10:10~12:15
参加者:43名(全学年)
[びじゅつかんの旅]
場所:OPAM全館
日時:2015年12月11日(金)9:50~11:15
参加者:15名(高等部2年生)

●大分県立日出支援学校
[びじゅつかんの旅じたく 静かなるアクションペインティング]
場所:大分県立日出支援学校
日時:2015年12月10日(木)13:20~14:45
参加者:9名(高等部3年生)
日時:2016年2月1日(月)13:25~14:45
参加者:17名(中学部全学年)
[びじゅつかんの旅]
場所:OPAM2F教育普及アトリエ、3Fコレクション展示室
日時:2015年12月16日(水)10:30~12:30
参加者:9名(高等部3年生)
日時:2016年2月1日(月)10:30~12:00
参加者:17名(中学部全学年)

●竹田市立久住中学校
[びじゅつかんの旅じたく ふわもこ3]
場所:竹田市立久住中学校体育館
日時:2016年1月21日(土)10:40~12:30
参加者:21名(中学1年生)
[びじゅつかんの旅じたく 身体のワークショップ]
場所:竹田市立久住中学校体育館
日時:2016年2月10日(水)10:40~12:30
参加者:20名(中学2年生)
講師:86B210

[びじゅつかんの旅]
場所:OPAM2F教育普及アトリエ、3Fコレクション展示室
日時:2016年1月28日(木)14:30~15:30
参加者:21名(中学1年生)
日時:2016年2月18日(木)14:30~15:30
参加者:21名(中学2年生)

●大分県立盲学校
[びじゅつかんの旅]
場所:OPAM1Fアトリウム、2F教育普及アトリエ
日時:2016年3月14日(月)10:30~11:30
参加者:2名(中学部全学年)

連携プログラム

アウトリーチ・プログラム

●姫島村立姫島小学校

[いるいるたっぷり カラフル・インスタレーション]
場所:姫島村立姫島小学校体育館
日時:2015年10月19日(月)10:00~11:25
参加者:76名(全学年)

[姫島色をつくる~いのちの色・植物]
場所:姫島村立姫島小学校・小学校周辺
日時:2015年10月19日(月)13:45~15:45
2015年10月20日(火)8:45~10:20
参加者:38名(小学4~6年生)

●姫島村立姫島中学校
[姫島色をつくる~いのちの色・植物]
場所:姫島村立姫島中学校
日時:2015年10月20日(火)13:30~15:50
参加者:38名(全学年)

●竹田市立狹小学校
[パンキン・ブロックをつくる!]
場所:竹田市立狹小学校
日時:2015年10月26日(月)14:05~15:40
参加者:22名(小学4年生)

●津久見市立聖徳小学校
[ザ・ビグメント~津久見色をつくる]
場所:津久見市立聖徳小学校
日時:2015年10月30日(金)10:40~12:15
参加者:7名(小学5年生)

●別府市立東山小学校
[ザ・ビグメント~別府色をつくる]
場所:別府市立東山小学校
日時:2015年11月5日(木)10:45~12:15
参加者:9名(小学4~6年生)

●豊後大野市立百枝小学校
[ザ・ビグメント~豊後大野色をつくる]
場所:豊後大野市立百枝小学校
日時:2016年1月14日(木)10:30~12:30
参加者:13名(小学4年生)

●佐伯市立色宮小学校
[ふわもこ]
場所:佐伯市立色宮小学校
日時:2016年1月19日(火)10:30~12:05
参加者:11名(小学1~3年生)
[ザ・ビグメント~佐伯色をつくる]
場所:佐伯市立色宮小学校
日時:2016年1月19日(火)13:30~15:15
参加者:13名(小学4~6年生)

●大分県立盲学校
[空気のカタチを追いかけろ!]
場所:大分県立盲学校小学部
日時:2016年2月22日(月)10:30~11:30
参加者:8名(小学部全学年)

先生のための講座

[ワタシ・イロをめぐるワークショップ]
場所:OPAM 2F教育普及アトリエ、3Fコレクション展示室
日時:2015年7月31日(金)10:00~16:00
参加者:16名(竹田市教育研究会岡工美術部会)

[先生のためのワークショップ]
場所:OPAM 2F教育普及アトリエ、3Fコレクション展示室
日時:2015年8月17日(月)、18日(火) 10:30~16:30
参加者:12名(県内教職員)

[すてきな三人組]
場所:OPAM 2F教育普及アトリエ、3Fコレクション展示室
日時:2015年8月24日(月)10:10~12:15
参加者:39名(採用2年目にあたる小学校教員等)
日時:2015年8月24日(月)14:00~16:05
参加者:37名(採用2年目にあたる小学校教員等)

教育機関との連携

[ファーストミュージアム体験事業]
場所:OPAM 全館
日時:2015年5月6日(月)~7月16日(木)
延べ46日間 10:00~15:55
2015年11月24日(火)~12月2日(水)
延べ7日間 10:00~15:30
参加者:60,947名(県内全小学生)
大分県少年の船実行委員会
[レクチャー 自然を見つめる 大分の土・石鉱物から顔料へ]
場所:大分県少年の船
日時:2015年7月26日(月)12:00~13:00
参加者:250名(小学5・6年生)

[レクチャー 自然を見つめる 大分の水のカタチ]
場所:大分県少年の船
日時:2015年7月26日(月)13:30~14:30
参加者:250名(小学5・6年生)

中学校文化連盟中学校芸術講座
[身体で見る展覧会]
場所:OPAM 2F教育普及アトリエ、3Fコレクション展示室
日時:2015年8月7日(金)10:00~16:00
参加者:28名(県内中学校美術部)

ふるさとの魅力発見・継承推進事業「県民フォーラム」
[レクチャー 大分の色・佐伯の色]
場所:白杵市野津中央公民館
日時:2015年10月17日(土)13:00~17:00
参加者:400名(県民フォーラム参加者)

[中学生美術鑑賞体験]
場所:佐伯教育市民ホール「まな美」
日時:2015年11月10日(火)~13日(金) 10:00~16:00
参加者398名(佐伯市内中学生)

[スクールミュージアム in 玖珠中学校]
場所:玖珠町立玖珠中学校体育館
日時:2015年12月14日(月) 8:30~12:20
参加者:170名(全学年)

サポーター・ワークショップ・グループ 活動

研修

[モノを視る楽しさ・視覚と錯覚、22本の鉛筆たち]
場所:OPAM2F教育普及アトリエ
日時:2015年9月19日(土)13:00~16:00
参加者:13名

[身体と感覚を確認する]
場所:OPAM全館
日時:2015年10月18日(土)14:00~16:00
参加者:12名

[光のゆくえ]
場所:OPAM2F教育普及体験学習室
日時:2015年11月15日(土)14:00~16:00
参加者:11名

[すてきな三人組]
場所:OPAM2F教育普及アトリエ、3Fコレクション展示室
日時:2015年12月20日(土)14:00~16:00
参加者:9名

[陰影礼賛 龍虎図屏風を火皿で視る]
場所:iichiko総合文化センターB1映像小ホール
日時:2016年1月17日(日)13:00~16:00
参加者:10名

[視点と視線]
場所:OPAM2F教育普及アトリエ
日時:2016年1月20日(水)9:30~12:30
参加者:10名(サポーター全体研修)
[視るは楽しい教材ボックス]
場所:OPAM2F教育普及アトリエ
日時:2016年1月20日(水)13:30~16:30
参加者:19名(サポーター全体研修)

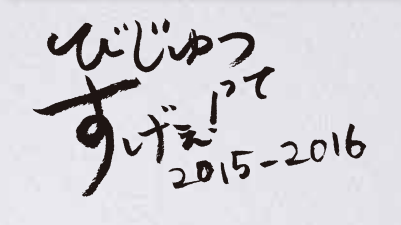
[感覚の開放~すてきな三人組]
場所:OPAM2F教育普及アトリエ、3Fコレクション展示室
日時:2016年1月27日(水)9:30~12:30
参加者:24名(サポーター全体研修)

[美術からみた文化~三本立て]
場所:OPAM2F教育普及アトリエ
日時:2016年1月20日(水)13:30~16:30
参加者:30名(サポーター全体研修)

[羊毛を染める]
場所:OPAM2F教育普及アトリエ
日時:2016年2月28日(日)13:30~16:30
参加者:9名

[アクションペインティング]
場所:OPAM2F教育普及アトリエ
日時:2016年3月20日(日)13:30~16:30

[顔料づくり]
場所:iichiko総合文化センター3F元教育普及グループ準備室
日時:2015年 9/9(水)、16(水)、30(水)
10/7(水)、14(水)、21(水)、28(水)
11/4(水)、20(金)、25(水)
12/11(金)、17(木)、25(金)
2016年 1/13(金)、22(金)、29(金)
2/12(金)、17(水)、24(水)
3/4(金)、11(金)、25(金)
2016年3月発行
すべて13:30~16:30



企画・制作・発行
アートフル大分プロジェクト実行委員会

委員長 照山 龍治
(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団専務理事

副委員長 加藤 康彦
(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団
大分県立美術館副館長

委員 佐藤 文博
大分県企画振興部芸術文化スポーツ局
芸術文化振興課長

委員 藤井 康子
大分大学教育福祉科学部准教授

事務局
公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団
(大分県立美術館)
大分市寿町2番1号 TEL097-533-4502

事務局長 祖母井一郎
(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団
管理運営本部次長

事務局次長 島田 忠
(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団
大分県立美術館企画広報課長

事務局員 木村 典之
(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団
大分県立美術館学芸普及課主幹
(教育普及担当)

執筆・写真撮影:榎本寿紀・木村典之・山本麻代
(大分県立美術館 教育普及グループ)

編集協力:ラルゴ 井上裕子
デザイン:ディ・エア 佐々木ツヨシ
印刷:株式会社 明文堂印刷

日時:2015年 9/9(水)、16(水)、30(水)
10/7(水)、14(水)、21(水)、28(水)
11/4(水)、20(金)、25(水)
12/11(金)、17(木)、25(金)
2016年 1/13(金)、22(金)、29(金)
2/12(金)、17(水)、24(水)
3/4(金)、11(金)、25(金)
2016年3月発行
すべて13:30~16:30

文化庁 | 平成27年度地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業